

## 1. 調査目的等

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

- 全国学力・学習状況調査(平均正答率)の全国との比較「-1桁」以内
- 福岡県学力実態調査(平均正答率)の県との比較「-1桁」以内

## 3. 指標にむけての取組

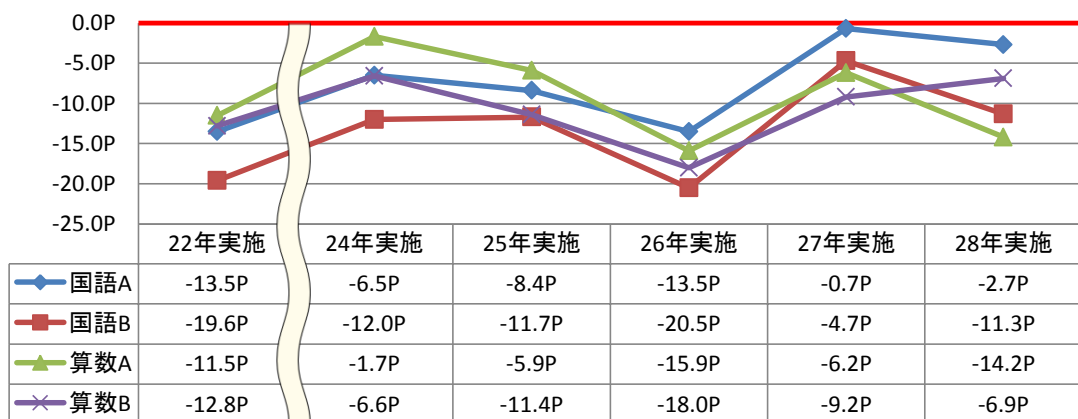
- 単元及び1単位時間において、意図的・計画的な「読む・書く・表現する」活動を設定する。
- 基礎・基本の内容を確実に習得させるために、形成的評価を実施する。
- 学年に応じた家庭学習(学年×10分+10分)の習慣化を図る。
- 各学年の学力向上プランを毎月振り返り、授業等の改善を図る。

## 4. 調査結果

本年度の結果 (平均正答率に対して)

教科名	国語A	国語B	算数A	算数B
本校(A)	70.2	46.5	63.4	40.3
嘉麻市(B)	65.3	51.6	72.8	41.9
(A) - (B)	4.9	-5.1	-9.4	-1.6
福岡県(C)	71.7	57.8	77.8	47.3
(A) - (C)	-1.5	-11.3	-14.4	-7.0
全国(D)	72.9	57.8	77.6	47.2
(A) - (D)	-2.7	-11.3	-14.2	-6.9

## 全国平均との差異



## 5. 各学校における分析

- 国語については、漢字等は定着しているが、文章記述を苦手としている児童が多い。
- 算数については、基礎学力が定着していない児童が多い。しかし、応用問題を最後まで解こうとする児童が多く、無回答が減っており、得点に結びついている。
- 全国学力学習状況調査と市販テストとの内容や時間に差があり、対応できていない児童が多い。

## 6. 各学校における今後の取組

- 国語の学習では、字数制限を設けた記述を取り入れ、国語Bの向上を図る。
- 算数の学習では、説明する活動を多く取り入れ、算数A・Bの向上を図る。
- 宿題に、全国学力学習状況調査の過去問題等を出し、問題に慣れさせる。
- 5年生児童を学力向上の重点学年とし、複数体制で指導にあたる。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・校内学力向上推進委員会への指導助言を行う。
  - ・取組状況の確認及び適時性のある指導を継続する。
- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
  - ・効果のあった授業モデルを提示する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。